

平成25年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会

会 議 録

日時：平成26年2月26日（水）
午前10時00分～11時30分

会場：金沢市役所 会議室「兼六」

所管：金沢市環境局環境政策課

本件は、平成25年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会の会議録であることを
了解します。

平成26年3月10日

金沢市廃棄物総合対策審議会

会長 関 平和

平成 25 年度第 2 回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 平成 26 年 2 月 26 日（水） 10:00～11:30

■場 所 金沢市役所 会議室「兼六」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

環 境 局 長 委員の皆様におかれましてはご多忙中のところ、ご出席を賜り感謝申し上げます。また、日頃より本市の廃棄物行政にご理解、ご協力いただき重ねて厚く御礼申し上げます。

北陸新幹線の金沢開業まであと 1 年である。金沢市は石川県と連携しながら、開業の効果を高めるための取組を進めている。このような中、本市では新たな都市像として「世界の交流拠点都市金沢」というものを掲げ、実現を目指している。これは、これまで培ってきた金沢の魅力をしっかり活用して、国の内外から人・物・情報を集積し、交流により新たな価値を創造し、街の持続的な発展につなげていこうというものである。そのような中、環境局としても同様に交流を活かし、環境負荷の低減、潤いある生活環境の確保につとめ、市民や街を訪れる方が金沢を気持ちよく安心して楽しめるような、そういう環境づくりに努めていきたいと考えている。委員の皆様には引き続き、ご指導、ご協力をお願いする。

本日は、諮問が 2 件である。1 つは消費税率の改定に伴う廃棄物処理手数料の改定、もうひとつは、犬猫の死体の収集処分手数料の区分の新設である。他に報告事項が数点である。

委員の皆様には忌憚のないご意見を賜れば幸いである。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 局

- ・委員の紹介
- ・欠席委員の報告
- ・出席委員数 9 名であり定足数を満たしていることを報告

諮問書を環境局長から会長に渡す

会 長 本日は、諮問の他に報告案件が 2 件である。
審議は公開とし、傍聴を認めるということでよろしいか。

(異議なし)

特に異議がないようであれば、このまま審議を始める。

それでは、まず、廃棄物処理手数料の改定及び新設について、諮問第1号「廃棄物処理手数料の改定について」事務局から説明をお願いします。

環境政策課長 資料①および②を使って説明

会 長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

(意見・質問なし)

会 長 特に意見がないようである。
消費税の改定によるものであり、特に問題はないと思うが、今回の改定を認めるということによろしいか。

(異議なし)

会 長 それでは、諮問第2号「犬猫等の死体処分（専用炉処分）手数料の新設について」事務局から説明をお願いします。

リサイクル推進課長補佐 資料③を使って説明

会 長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委 員 ペットの（死体収集処分の）扱い件数は年々増えているのか。

リサイクル推進課長補佐 年間約300件の申込みがあり、横ばいの状態である。
電話での申し込み時に、ごみと一緒に焼却するということを説明すると、家族の一員としてかわいがっていたペットをごみと一緒に処分したくないという人がいる。現在、そういう場合は、民間のペット専門葬儀社もあることを伝えているが、民間なので、金額は高い。

会 長 他に特に意見がないようなので、この件についても、特に問題はないということで、新設を認めるとしてよろしいか。

委員 (異議なし)

会長 異議がないようなので、諮問第1号、第2号いずれも認めるということで諮問についての審議を終了します。市長に提出する答申の文書については私にお任せいただくということによろしいか。

委員 (異議なし)

会長 それでは、私の方で答申を作成し、提出する。
では次に、報告案件①「一般廃棄物処理計画に係る平成26年度実施計画について」事務局から説明をお願いする。

リサイクル推進課長補佐 資料④について説明

会長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委員 最終処分場の残余埋立容量について、現在、残余量が111万9千 m^3 であり、今年の埋立容量が10万8千 m^3 ということだが、これでいくと、あと10年ほどでいっぱいになってしまうということになるが、この先埋立場を確保できる見込みはあるのか。

環境政策課長 最終処分場については、平成33年度で埋立を完了する予定である。すでに、隣接地において、次期の埋立場の建設を進めている。雨水調整池の建設を皮切りに、現在、埋立場への進入路周辺の造成工事を進めており、来年度終了する。その後、本格的な埋立地の建設工事に入っていき、見込みとしては、31年度に完成の予定である。現在使用中の埋立場が埋立を完了する前には、新しい埋立場を供用開始できる計画である。

委員 了解した。

委員 1ページの収集処理の発生量についてであるが、現行のごみ処理基本計画では、平成27年度に資源化率25%を達成し、平成36年度まで継続するという目標があるが、最近、資源化率は悪くなっていると思われる。よほどの施策がなければ、この資源化率を達成するのは困難だろう。そんな中、平成26年度の実施計画において、この資源回収ごみの発生量見込みは、(前年度の)結果の数字を積み上げているだけであり、(計画の段階で目標を下回る数値を掲げているようで

は) 目標達成は不可能ではないか。目標を定めて、それに向かって様々な施策を打ち出していく必要があるのではないか。

環境局長

資源回収ごみについては、プラスチックや缶などの容器が薄く、軽くなっていることの影響もあり、年々、微減となっている。また、現行のごみ処理基本計画で、資源化のターゲットとしている集団回収の紙ごみについても、計画を下回っており、よい結果が出ていない。さらなるごみの発生抑制、減量化をしっかりとやっていく必要がある。ごみ処理基本計画の数値目標について、定めただけで達成はできなかったということはよくないと考えており、目標達成のため、新たな施策も考えている。ひとつは、資源ごみの収集回数が少なく、家庭での保管が負担となっていることから、拠点回収の場所を増やし、保管の負担を軽減しようというもの。また、事業所系のごみについて資源回収が遅れている部分があるので、その対策についても来年度以降しっかり取り組んでいきたい。どういう取組ができるのかをしっかりと検討したうえで、目標に向かって進んでいきたいと考えている。

委員

今言ったようなことが、平成26年度の目標達成に具体的なものとして現れるのが心配である。県内でも7割の市町が実施しているように、ごみ袋を有料化したら、ごみを意識的に減らそうとか、分別しようという気持ちになるのではないか。家庭から出る燃えるごみの中に3割近くは資源化できるものが入っており、それを分別し、資源ごみに出してもらえば、資源化率が上がるだろうという報告が以前あった。指導するというぐらいの施策では、至難の業ではないか。

環境局長

おっしゃるように、燃やすごみの中には、紙ごみが多く含まれている。ごみ袋にも入れずに、紐で縛った格好で出ているものもある。今はそれを燃やすごみとして収集し、焼却している。可能ならば、それをしっかりと分別して、リサイクルにまわす、そうしたことも調査して進めていきたい。そのように、できることを考え、実践し、資源化率を上げていくような取組を進めていきたい。

委員

燃えるごみの日に新聞や雑誌がたくさん出ている。家庭から見れば、これらはごみでしかなく、家にためておきたくないという意識が働いて、燃えるごみに出してしまうと聞いている。学校での集団回収もあるが、市民の意識は低いだろう。紙も資源であるというなら、資源ごみの品目にそれを追加して、ステーション回収をしっかりとしたら、資源化率は上がるのではないか。

委員

そのとおりだ。私の町会でも、ごみの中に含まれる資源の分別につ

いて検討している。一番の問題は、置き場所がないということである。ステーションの回収を決めたとしても、時間帯がずれると（回収してもらえないために、放置されることとなり）放火など様々な問題が出てくる。なので、まずは、ステーションの中で、資源となるようなものが出てくるステーションをピックアップしてもらって、町会に教えてもらい、町会の中でどうするかを考えていけばいいのではないかと考えている。私たちの地区の学校では、校務士さんに事前に言っておけば、平日でも資源ごみを受け入れてくれるということになっている。紙ごみのステーション回収をすれば、資源化率が上がるというのはおっしゃる通りだが、ステーションに紙ごみをいっぱい積み上げるというのは、濡れても困るし、火をつけられても困るし、問題がある。

委員 濡れるのは心配だが、それならばそのような入れ物を用意すればよいのではないか。

また、前回の審議会で報告のあった資源ごみの自己搬入を促す「ストアークるステーション」についてであるが、三崎ストアと東京ストアで始まりましたということだが、そのような形が全てのスーパーに広げられないのか。

環境局長 来年度は、拠点回収の箇所を増設する予定である。

委員 ストアークるステーションでは、紙をやっていないことが多い。最大の資源である紙を回収してくれる所が増えれば、買い物に行ったついでに持って行けてよいのだが。

委員 私のところではやっているが、一部のスーパーしかやっていない。紙の量はすごい。先ほど言われたように、火の問題がある。なので、必ず鍵をかけるような設備にしている。雨に濡れないようにもしなくてはならない。本や新聞が結構持ち込まれている。

委員 心配したのは、資源化率の大きな数値を目標に掲げているのに、この平成26年度の実施計画で、27年度にどうやって達成するのか、結果できませんでしたという答えになるのではということである。

環境局長 後ほど、計画の進捗状況の説明もあるが、今ご指摘いただいた件については、しっかり受け止めて、特に紙ごみの件については、次年度以降しっかり対応していきたいと思っている。

委員 東京ストアは営業をやめて、アルビスが継承したはずだが、このストアークるステーションはどうなるのか。

リサイクル推進課長補佐 引き続きアルビスにやってもらうということでした承を得ている。

委 員 それならば、他のアルビスの店舗でもやってくればよいのに。

会 長 では次に、報告案件②「ごみ処理基本計画（第5期）策定について」事務局から説明をお願いします。

環境政策課計画推進グループ長 資料⑤について説明

会 長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委 員 燃やすごみに出ている紙類を減らして資源ごみとして回収することが、資源化率を上げるということにつながるということではないか。それをどうするかというのは、やはり、分別もさることながら、集める方法を真剣に考えなければならない。プラスチックを燃やすごみに出すことになってから、紙も燃やすごみに出されることが多くなった気がする。みんな気持ちが楽になって、何でも出してしまえという感覚になっているのではないかという気がする。

環境政策課長 今年度、ごみの組成調査を実施している。ごみの中にどういうものが含まれているか分析している。その結果が出れば、燃やすごみの中に紙類が何割程度含まれていて、それを拠点回収等により資源化することはできないかということをご報告し、ご意見をいただきたい。今はまだ結果が出ていないので、次回の審議会で報告したい。

委 員 私の町会では、1月頃に、リサイクル推進課の職員がごみステーションをまわって出されているごみの写真を撮って、ごみの分別について指導をしていた。それが、私の町会の中では効果があった。一斉にはできないかもしれないが、できることからやっていけばいいのではないかと思う。

環境政策課長 そうしたモデル的な試行も含めて、今後、ご意見をいただいていたきたい。

委 員 私は、今月ごみ当番でステーションに立ったが、その時、新聞紙が1束出っていて、最終的には私が回収したが、みんなの意識が薄れているのではないかと思う。市が配っている「ごみの出し方・分け方」のパンフレットをもっと資源回収中心のものに直してはどうか。あのパ

ンフレットを見ると、(資源ごみなのか違うのか) どちらなのかなと判断に迷うことがよくある。そういうところもメリハリを効かせて、リサイクルの方に仕向けるようなそういうマニュアルにしてくれれば、みんなの意識が変わると思うので、そういうところも検討してほしい。

委員 ごみ袋の有料化を検討してもよいと思う。全国の市町村でも6割強が実施しているし、県内でも7割でやっている。やっていないところの方が少ないくらいである。

環境局長 県内でも、金沢市、白山市、野々市市、小松市以外では有料化を実施している。中核市では、実施しているのが42市中10市、政令市では、20市中8市という状況である。他都市の状況も見ながら、そうしたことも検討のひとつに入れていきたい。

委員 石川県を見ると、金沢の数値の影響は大きい。だから、石川県の資源化率はものすごく悪い。他の市町が頑張っても、金沢の資源化率がどんどん下がっていて、石川県全体の足を引っ張っている。

そもそも、資源化率の平成36年に25%という目標も、国の指導があり、右へならえで設定したものだろう。当初の計画策定時には、まだまだ時間があるので、なんとかなるという思いもあっただろうがそう簡単にはいかない。思い切った策がいる。また、紙ごみは県内市町の大半はステーション回収している。金沢がやっていないだけ。問題はあるだろうが、それをクリアしながらやっていかなければならない。家庭の総排出量が減っているというのは、指導がきいてきているのだろうが、家庭ごみに占める紙ごみが3割程度であるとか、野菜くずなどの生ごみの水切りをしっかりとしたら重量が減るということも大切である。

環境局長 缶やペットボトルやビンについては分別が浸透しているし、容器包装も軽量化しており、こうした資源ごみの量を増やすことには限界がある。今後、ターゲットにすべきなのは、紙ごみと生ごみだと考えている。水切りの話もあるが、ダンボールコンポストなどによる発生抑制も重要である。ごみの減量化には、発生抑制と資源化という2つの手段がある。発生抑制をしていくと資源化率が上がるとは言いきれない部分もあるので、今年度実施しているごみの組成調査結果を踏まえて、どこをターゲットにするのが一番効果が出るのかを見定めて、その上で、もう一度目標値を見直して、新たな計画を策定していけるようしっかりと進めていきたいと考える。

委員 毎年配っている「ごみの出し方・分け方」の中に、集団回収についても、日程を載せていけばいいのではないか。集団回収の実施日は、町内会の回覧板で回るだけなので、見ていないことも多いのではないか。いつもと違うごみがあると、あのパンフレットを見て、どのように捨てればよいか調べたりもするので、そこに、集団回収日が載っていたら便利だと思うが。

環境局長 集団回収は、実施する校下、団体によりまちまちであり、年度の初めに配布する冊子に掲載するのは難しい。

ステーション回収で紙ごみを集めているところもあるので、そうしたところを研究していきたい。

委員 学校の集団回収の回数は減ってきている。学校の集団回収に協力すると、それが学校の活動資金になるということで、協力してやっているが、学校も色々忙しく、集団回収を以前ほどやれないという。そうになると、面倒なので、燃やすごみに出してしまうという人もいる。

市で回収してもらえるといい。たとえば、年2回の一斉美化清掃の時などに一緒に集めてもいいのではないかと思う。

委員 ごみ袋の有料化について、よその都市に住んでいた時に、有料だったこともあるが、その時は、ごみ袋が立派すぎると感じた。そういうことも考えてほしい。

委員 それは難しい。粗末な袋だとごみを入れたら破れてしまって使いにくいし、かといって立派すぎるものももったいない。金属片などもあるので、あまり薄くても扱いにくい。

会長 意見をまとめると、主に4つの論点があった。

・紙ごみの資源化を進めるために、ステーション回収も視野に入れて検討すべきであること

・ごみステーションでのごみの分別について、市の指導を受ける機会を増やしてほしいということ。やれることからやってほしいということ。

・ごみの分別に対する市民の意識が薄れているということで、パンフレットなどにもっと工夫が必要であるということ。

・ごみ袋の有料化を進めてほしいということ

以上のような意見であったと思う。

他に意見はないか。

委員 少子化で単身世帯が増えていると思う。町会単位では規則を持って

やれるだろうが、アパートなどが増えてくると、浸透しなくなって意識は希薄化されていくと思う。

また、資料によると、リーマンショック以降、ごみの量が減っている。生産性が落ちているところもあるし、IT化が進んでペーパーレス化も今後いっそう進んで行くだらう。つまり、紙ごみの量も変わってくるだろう。

もうひとつには、今、全国に4万2千店舗のコンビニとドラッグストアは6万3千店舗ある。そうしたところとの連携により資源の回収も可能になってくるのではないか。特に若い人はよくコンビニを利用する。そうした店舗に協力してもらうのもひとつの手段ではないか。

会 長 本日の議事は以上であるが、議事に関する事またはそれ以外のことでご意見ご質問等ないか。

他に意見がないようであれば、本日の議事を以上とする。

事 務 局 では、ここで、平成26年度の環境局の事業について、環境局長より説明申し上げる。

環 境 局 長 平成26年度は、ごみの減量化の推進と効率的な施設整備を目指して新たな事業に取り組んでいく。

先ほどの話にもあったように、27年度からの計画となる「第5期ごみ処理基本計画」の策定に向けては、リサイクル推進課の中に「ごみ減量化推進室」を設け、ごみの減量化施策についてしっかりと検討を進めていく。

資源ごみの収集については、今年度から実施している資源ごみの拠点回収事業「スターくるステーション」については、店舗数を増やし、また、コンビニエンスストアでの資源ごみの回収も試験的に取り組むなど、市民の資源ごみの保管負担の軽減と回収量のアップを目指していきたい。

また、リサイクル事業者を対象とした講習会の開催や、産学官の連携によるリサイクル技術向上のための研究会を設置し、静脈産業の発展を図る取組も進めていく。

最後に、ごみ処理施設等の整備については、完成から20年余り経過した東部環境エネルギーセンターでは、基幹的設備の改良事業を4年間にわたり実施し延命化を図る。また、西部環境エネルギーセンター旧工場の跡地には、資源ごみのストックヤードを建設する。次期埋立場の建設事業については、現在工事中の埋立地への進入路やその周辺の造成工事については、来年度完成する予定である。平成27年度からの埋立地本体の整備に着手するための準備も進めていく。

今後も本市環境行政にご指導・ご協力をお願い申し上げます。

事 務 局

長時間にわたるご審議に感謝申し上げます。

これで、平成25年度第2回廃棄物総合対策審議会を終了する。

(別 紙)

平成25年度第2回廃棄物総合対策審議会出席者 (順不同、敬称略)

会長 関 平和 (金沢大学理工研究学域教授)
池田 啓一 (北陸大学薬学部講師)
山本 建夫 (金沢市町会連合会副会長)
林 健治 (金沢商工会議所理事・事務局長)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
福島 幸子 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
横江 斉 (石川県環境部次長、
石川県環境部長 堀畑 正純委員の代理出席)
西元 修 (公募委員)
山家 善喜 (公募委員)

※欠席者

出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系助教)
河内 久美子 (金沢学院短期大学副学長教授)
能木場 由紀子 (金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
井上 星奈 (「金沢のごみを考える」学生連絡会)
元林 秀夫 (金沢農業振興協議会会長)

(事務局出席者)

宮本 伸一 (金沢市環境局長)
中村 悦郎 (金沢市環境局担当部長兼施設管理課長)
佐久間 悟 (金沢市環境局環境政策課長)
鹿間 哲 (金沢市環境局環境指導課長)
西川 信一 (金沢市環境政策課長補佐)
山形 博 (金沢市環境局リサイクル推進課長補佐)
稲本 美和子 (金沢市環境局環境政策課計画推進グループ長)
横山 健 (金沢市環境局リサイクル推進課庶務グループ長)
宮田 久美子 (金沢市環境政策課庶務グループ長)
水島 朋子 (金沢市環境政策課主査)